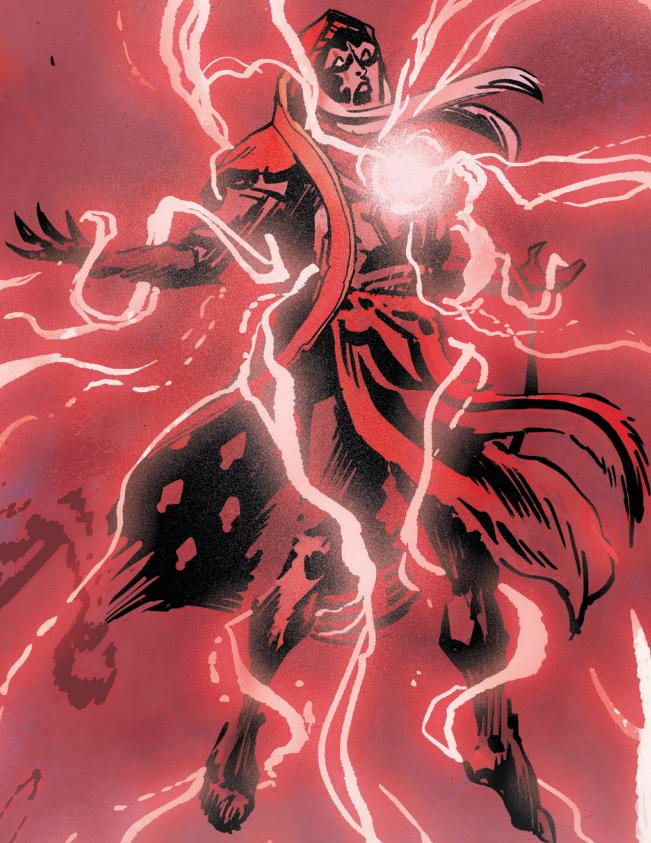


血塗られし者たち

RYAN QUINN

ADAM GORHAM



DIABLO[®]
IMMORTAL[™]

BLIZZARD
ENTERTAINMENT



血塗られし者たち

DIABLO
IMMORTAL™

シャードボーンを支配する力を引き継いだアルブレヒト王子は、それ以来、自分と似た境遇にある者たちのためにひたすら平和と安寧の場だけを求めて続けていた。アルブレヒトはシャーバルの荒野に広がる鬱蒼とした森の奥深くで同胞たちの新たな安息の地を見つける…ここを守るためにあれば、彼はあらゆる手を尽くすだろう。

文 RYAN QUINN アート ADAM GØRHAM

彩色 JØRDIE BELLAIRE レイアウト COREY PETERSCHMIDT

レタリング ANDWORLD DESIGN 表紙 ADAM GØRHAM

Blizzard Entertainment

シニアディレクター、ストーリー&フランチャイズ開発 VENECIA DURAN

シニアマネージャー、ライティングおよび書籍 MATTHEW COHAN 監修者 CHLOE FRABONI

編集主任 MEGAN WALKER シニアブランドアーティスト COREY PETERSCHMIDT

プロダクション BRIANNE MESSINA, TAKAYUKI SHIMBO, VALERIE STONE, LAURA TAYLOR

ゲームチーム監修 DAVID LØMELI, RYAN QUINN, EMIL SALIM,

BENJAMIN WAGNER, SHANNON WILLIAMS 世界設定監修 IAN LANDA-BEAVERS

BLIZZARD®
ENTERTAINMENT Blizzard.com

© 2025 Blizzard Entertainment, Inc. BlizzardおよびBlizzard Entertainmentのロゴは、米国または他の国におけるBlizzard Entertainment, Inc.の商標または登録商標です。

出版: Blizzard Entertainment

このコミックはフィクションです。名称、キャラクター、場所、事象は、作者あるいはアーティストの創作もしくはフィクションです。存命か故人かを問わず、実在の人物、事業所、事象、場所とは一切関係ありません。

Blizzard Entertainmentは、作者、サードパーティのサイトおよびサイトの掲載内容に関して、一切の責任を負いません。

お前は一筋の希望の光だった。
長き悪夢の終焉の象徴。

シャーバルの自由の民だった。

バシヤツ

お前も私のように…見捨てられた。
忘れられし者。声なき存在だ。
だが決して愛されなかつたわけではない。

私はお前を愛していた。

だが、エンツタイグの人々は、
私が誰かにこの贈り物を与えることを望んでいない。

我が同胞よ、お前に大いなる恵みを授けたい。
どんな災禍をも乗り越えられる力だ。

王のために!

彼らは道を誤っている…しかし私は全ての者に、
家族として居場所を与えようと努めてきた。

私は彼らを自由へと招待した。

しかし必要だったのはより強い導きだったのかもしれない。

死にたくなければ武器を捨てろ!

助けてくれ!

お前が現れるまで私は孤独だった。
私は家族を失い、
目に映るものすべてに恐怖した。

だが私は新たな家族を見つけた。
シャードボーンだ。。

我々は名を持たなかった。
必要がなかったからだ。

我々は欠片を追い求めた。
思いはただひとつだった。

従え

従え

従え

我々は安息の地を求めた。
しかしそれは見つからず、
自分の手で作ることを私は決意した。

同胞の数が増え、大地は理解を示した。
そして我々を、新たな住まいへと迎え入れた。

我々の数はかつてよりも減ってつ
ていた。先住民にとって我々は、得
体の知れぬ、恐ろしい存在だった。

奴らが足を踏み入れた場所は…
どこも腐敗し始める。

ならなおのこと、
さつさと始末せねば。

我々家族は慎重に力を蓄えねばなら
なかつた。
シャーバルは住まいだけではなく…
新たな同胞も与えてくれた。

最初に出会ったのが、センリックだった。
信仰に篤く、正義に忠実な男だ。

彼は私が求めたのと同じ未来
をお前に望んでいた。

私の話には耳を傾けぬシャーバル
の民も、彼の話ならばよく聞いた

我々の内なる光が
自由を与えてくれたのだ！

次に、ネクロマンサーのレセスが私の前に現れた。
傍若無人。無慈悲。自らの利益しか考えない。
お前とは正対だ。

しかし、死者を蘇らせるには彼女の
力が必要だった。

王が民の自由を奪おうとも、
アルプレヒトが取り戻してください。

王子よ、この者たちは、
あたかもお前が直々に操っ
ているかのように動くだろう

死者が歩いているぞ！

ああ…

このような力があれば、
お前は安全だ

大司教ラザルスは殺人者であり裏切り者だ。
シャードボーンには相応しくない。

エンツタイグでは、我々は怪物と呼ばれている。
彼らは間違っている。
我々は新たな文明の使者なのだ。

ワールドストーンの欠片がほとんど残っ
ていない今となってはなおさらだ。

だが彼を救すことは我々の
未来を築く助けになるだろう

私はワールドストーンの欠片をほとんど使い果たしてしまった。だが我々はまだ成長し続ける。

我々の家族には糧が必要だ。我々には安全に暮らせる場所が必要なのだ。



我々はただ、自らが築き上げたこの地を共有したいだけなのだ。それでも彼らは攻撃の手を緩めようとしてない。もし我々が彼らに宮殿を建ててやったら…彼らはそれに火を放つだろう。

私は暴君などではない。自由がもたらす平和をエンツタイグの人々に授けてきた。

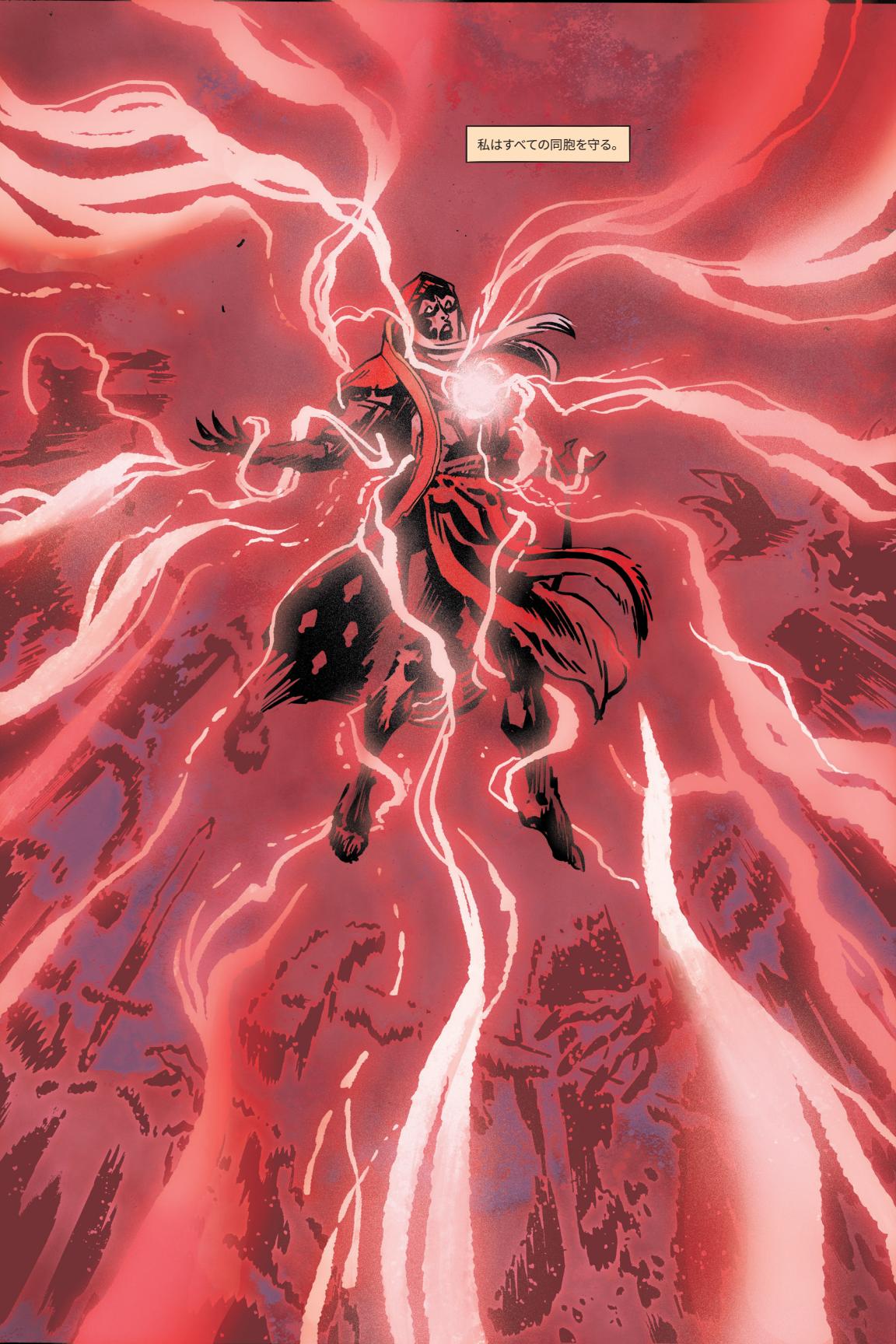
光に跪くがいい！



彼らはそれをただ拒否するだけではない。我々が未熟なうちに根絶やしにしようとしている。

我々はもう十分に苦しんだ。





私はすべての同胞を守る。

家族とは、幾世代にもわたり、
巡る季節のように紡がれる宿みだ。

共に行こう。

残された者たちは…
何かを育まねばならない。

我々よりも長く生きる何かを。

我々の楽園、我々の安息の地、
我々のサンクチュアリが間もなく誕生する。

そこでは、もう二度と
我々が傷付けられることはないと。